



八千代市農業委員会だより



▲ 遊休農地対策の草刈風景

遊休農地対策

農地は、農業生産の基盤であり農業者にとつては貴重な資産であるとともに、農地所有者は、適切に耕うん・作付け等を行い、農地を管理する義務があります。

しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足により、耕作されない遊休農地や耕作放棄地が各地域で多く見受けられる状況にあります。

遊休農地や有効利用されない農地は、農地本来の農業生産が充分できないうえ、病虫害の発生や有害鳥獣の生息地となります。また、ゴミの不法投棄や火災発生など、周辺農地の生産環境や住環境へ悪影響を与えることにもなっております。

農業委員会では、これらの遊休農地の解消を目的に遊休農地対策委員会を立ち上げ、そのメンバーが主体となりモデル地区を選定し、農地を復元するために草刈や耕うんを行いました。

このように、委員会としてどのような解消方法があるかを検討しておりますので、何かアイデアや情報等がありましたら、地区担当委員・事務局等にご提案くださいますようお願いいたします。

主な内容

- | | | | | |
|----------------------------------|-----|---------------------------|------------------------|---|
| ◆ 「平成31年度八千代市農業施策に関する意見書」の回答について | 2・3 | 【別紙】 | ◆ 八千代市農地賃借料 | Ⅰ |
| ◆ 農地の利用状況調査の結果について | 4 | ◆ 老後の備えは十分ですか？－農業者年金－ | ◆ 平成31年八千代市農作業別標準農作業料金 | Ⅰ |
| ◆ 農家リレー随筆 | 4 | ◆ 平成31年産の「たけのこ」の出荷・販売について | | Ⅱ |
| ◆ 編集後記 | 4 | | | Ⅱ |

「平成31年度八千代市農業施策に関する意見書」の回答について

農業委員会から市長へ提出した「平成31年度八千代市農業施策に関する意見書」の回答が平成30年12月26日にありました。

市長からの回答にご意見がある場合は、地元の農業委員、推進委員及び農業委員会事務局へご連絡ください。

意見書への回答は次のとおりです。

1 農地の集積・集約化について

【意見】

八千代市の農業は、農業者の高齢化、遊休農地の増加、土地持ち非農家の増加などの問題を抱えており、担い手への農地利用の集積・集約化や新規参入の促進等「農地等の利用の最適化」が推進されているとは言い難い状況である。

農業委員会においても、平成28年の農業委員会法の改正により、「農地等の利用の最適化の推進」が必須事務として位置付けられたことから、平成29年10月に「農地

等の利用の最適化に関する指針」を定め、農業者の意思と地域の資源に照らした実現可能性のある「人・農地プラン」の見直しに積極的に参画することとしている。

このため、「人・農地プラン」の地域ごとの策定に向け、市と農業委員及び農地利用最適化推進委員、各関連機関と協力し地域の話し合い活動等具体的に取り組まれない。

※「人・農地プラン」とは集落・地域の今後の農業のあり方に関する話し合いの結果を踏まえて、市町村が素案を作成し、検討会の審査を経て市町村長が決定するものです。

【回答】

市としても、持続可能な地域農業のための農業問題の解決には、耕作放棄地対策など農業問題の根本である農業者と農地のマッチングについてが重要な問題であると考えております。

このため今後は、農業委員及び農地利用最適化推進委員の支援を受けながら八千代市人農地プランを見直したいと考えております

で、平成31年度については、遊休農地の現況整理のための図面作製の予算を要求いたしました。（農業振興事業 要求額993,600円）

2 遊休農地対策について

【意見】

農業者の高齢化や担い手不足などのため、八千代市においても遊休農地は年々増加しており、平成29年度末には100・36ヘクタール（田68・33ヘクタール 畑32・03ヘクタール）の遊休農地が発生しており、管内の農地面積との割合は10・87%になっている。このような状況のため、農地の再生活動に係る費用を支援する補助事業の導入や遊休農地を活用した事業の調査研究などの支援策を講じられたい。

【回答】

平成27年の当市の農業就業人口につきましては、平均年齢は63・8歳であり、主に農業をしている人のうち65歳以上の割合は約60%であることから、市といたしましても耕作放棄地増加の要因は、農業就業人口の減少に伴う担い手農

家の減少のほか、高齢化による農業意欲の低下もあると考えています。

このため、平成30年度は、飼料作物生産拡充及び低コスト生産体制の確立による飼料自給率向上を図り、畜産経営の安定を図ることを目的として、市内酪農家と耕種農家で実施している飼料生産拡大整備支援補助事業により、約0・5ヘクタールの水田の遊休農地の解消を図りました。

八千代市農業の特徴である酪農の保全と主食用米の需給調整面積の確保、また、水田の遊休農地の利用法として有効であると考えられるため、これを拡大できるように検討してまいります。

その他の遊休農地対策としては、多面的機能支払交付金事業があり、市内の桑納と麦丸2地区で行っております。

同事業では、対象区域内に遊休農地がある場合は事業期間の5箇年で解消することが要件となっているため、桑納地区では、既に事業区域内の全ての遊休農地約0・8ヘクタール、麦丸地区では、平成30年度に事業区域内の3・8ヘクタールの内約2・7ヘクタール

の遊休農地の解消を図りました。また、平成31年度以降は新規1地区を増やせるよう予算を要求いたしました。

今後遊休農地解消に繋がる方策等について研究してまいります。(農業農村振興事業 要求額 5,184,804円)

3 担い手・新規就農者の育成や確保について

【意見】

八千代市の農業を維持していくには、農業後継者や新たな担い手を確保することが重要な課題である。このため、将来にわたり安定的な農業経営を行える担い手を育成・確保する取り組みを推進されたい。また、地元とのつながりや地元出身の農家を増やすためにも子どもや若者が農業の大切さを学ぶ機会づくりに取り組まれない。

【回答】

担い手・新規就農者の育成や確保につきましては、今年度、農業次世代人材投資事業の新規交付対象者及び交付対象者以外の新規就農者の相談に対応するため、「経営・技術」、「営農資金」、「農地」

の各課題に対し、千葉県千葉農業事務所、JA八千代市、八千代市農業委員会の協力の元、専属の担当者を配置し、対応する体制を整えました。また、今年度から、市農業の長期的ビジョンとなる農業振興計画の策定に向けた準備を進めておりますが、平成31年度以降は市農業の現状や課題を分析するための予算を要求いたしました。今後は、同計画の中にも中・長期的な視点にたった対応を掲げてまいりますと考えております。(農業振興事業 要求額 5,940,000円)

なお、農業の大切さを学ぶ機会づくりに関しましては、現時点においても農と食の学び舎で市内小学生を対象に食育について勉強会を開催しており、参加した小学生からも将来農家になりたいなどの意見も頂いており、別の方法については今後研究してまいります。

4 有害鳥獣対策について

【意見】

有害鳥獣対策では、猟友会による有害鳥獣の捕獲業務等により、一定の成果があげられているが、アンケート調査からは、近年、ム

クドリやカラスなどの鳥類の被害が増加している状況がみられる。有害鳥獣による農作物被害は、生産意欲の減退や耕作放棄地の増大にもつながっていくため、引き続き対策の強化と農業者への研修等の施策を講じられたい。

【回答】

有害鳥獣対策につきましては、引き続き継続してまいります。小型箱わなの貸し出しに係る周知方法につきましては、市広報、市ホームページ、農業委員会だ

りに掲載して周知を図っておりますが、今後広報への掲載回数を増やせるか検討してまいります。なお、ムクドリ・カラス等鳥類の被害対策につきましては、他の自治体においても有効な手立てがない状況でございます。例年と同様の対応となりますが、各関係機関や他市から情報収集を行ない、銃による駆除以外の有効な対策方法について研究してまいります。

5 農業者の所得向上について

【意見】

農業者の所得を向上させるためには販路を拡大することが有効な

手段であり、アンケート調査からも農産物直売所の設置などを求める意見が多数寄せられた。

現在、八千代市においてはJAグリーンハウスや八千代ふるさとステーション等の直売所があり、その会員農家の所得向上に寄与している。このため、新たな直売所の設置ややちよ農業交流センターにおける直売所の拡充、食品加工販売所や農家レストランの設置に向け、さらに取り組みされたい。

【回答】

農業者の所得向上に繋がる機会の1つとして、今年度、八千代市農業協同組合と協議し、試験的に市役所の駐車場で軽トラックによる朝市(野菜販売)を10月に開催する予定でしたが、台風24号による農作物への影響により、その時期に野菜が揃わず止むを得ず中止となりました。今後の開催については、現在調整中であり、実現でき、好評であれば定期的に開催することを検討しております。

なお、新たな直売所の設置などに関しましては、方策や可能性についてを研究してまいります。

農地の利用状況調査の結果について

遊休農地の現状把握のため、農地法に基づき毎年1回農地の利用状況調査を実施しています。平成30年度の調査結果は次の表のとおりです。

平成30年度利用状況調査結果 単位:㎡

区分 地目	農地		非農地	計
	2号 遊休農地	1号 遊休農地		
田	88,342	561,214	22,969	672,525
畑	37,631	257,053	64,983	359,667
計	125,973	818,267	87,952	1,032,192

*2号遊休農地:雑草が繁茂しているが、トラクター・耕運機等利用して耕作が可能となる農地
 *1号遊休農地:雑草が繁茂しているが、トラクター・耕運機等利用して耕作が可能とならない農地
 *非農地:山林や原野化する等、農地に復元することが困難な農地

農家の皆様におかれましては、ご協力いただきありがとうございます。また、利用状況調査の結果、遊

今回は平成31年8月に実施する予定です。調査の際は、ご理解とご協力をお願いします。

休農地と判定された農地の所有者等に對し、利用意向調査を行いますので、併せてご協力をお願いします。

農家リレー随筆

私の農業への歩み

長岡 みづ枝 (菅田)

私は菅田で花卉生産をしています。父がこの地で花づくりを始めて

約50年、東葉高速鉄道八千代中央駅に近く周りは住宅街に囲まれている中で鉢花、ポット苗生産をしています。主に春から夏にかけてはサフィニアやカリブラコア、ニチニチソウ、センニチコウ、サルビア等を、秋はパンジー、ビオラを栽培しています。その時の気候や灌水、管理の仕方ひとつで生育が左右される花卉栽培は本当に難しいと実感しています。

私は園芸科のある学校を卒業した後、造園会社に5年ほど勤め、そこで管理委託されたガーデンの花壇植栽管理や様々なセミナー等の企画などの仕事をしました。

失敗も多々経験し、まだまだ足りなかった植物の知識を植栽管理に携わりながら勉強させてもらった貴重な時間でした。

退職後に就農してから10年ほどになります。

就農してすぐの頃、千葉農業事務所、八千代市農政課の方からお声かけ頂き、「八千代さわやかセミナー」に参加しました。それは、農業に関わる勉強会を兼ねながら、今まであまり接点のなかった農業に携わる若手の女性たちを結び付けてくれるものでした。その後、JA八千代市フレッシュユミズ・アンシャンテ倶楽部として組織化に至り、農協まつりや勉強会、研修旅行などの活動を通して情報交換を行っています。交流する場が増え、仕事の合間を縫って出かける機会が楽しみとなり、私にとって大切な時間となっています。

また、ここ数年は公民館やJA



女性部での寄せ植え教室をさせて頂いたり、農業士として先輩方や他の農家さんとの接点ができ、よい機会を頂いています。

これらの出会いをこれからも大切に、まだまだ未熟な栽培技術を向上させ、日々精進していきたいと思っています。

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

本号では、農業委員会遊休農地対策委員が農地を復元している様子を表紙にしました。次に、市長へ提出した「平成31年度八千代市農業施策に関する意見書」の回答に加え、農地利用状況調査の結果等の情報と市内では珍しい花卉農家の方の随筆をまとめ掲載しました。今後とも、皆様のご協力をお願いいたします。

広報委員 島村隼人

平成31年3月発行
第42号

発行 八千代市農業委員会
編集 広報委員会

〒276-8501
八千代市大和田新田312-5
電話047(483)1151
URL <http://www.city.yachiyo.chiba.jp/500500/index.html>

八千代市農地賃借料

平成30年1月から12月までの農業経営基盤強化促進法の利用権設定による賃借料は、【表1・表2】のとおりです。なお、今回は農地法第3条の賃借権設定による事例はありませんでした。

この賃借料情報は、農地の貸し借りをする場合の参考のために集計したものですので、**実際に賃借料を決定する際は、貸し手と借り手の両者でよく協議してください。**

【表1】 田(水稻)の部

(単位:円/10a、筆)

締結(公告)された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
麦 丸	10,400	11,900	10,100	8
下 高 野	14,700	14,700	14,700	5
萱 田	14,200	14,200	14,200	4
桑 納	13,300	13,300	13,300	4
村 上	22,100	22,100	22,100	2
小池・米本・尾崎	13,500	14,700	11,000	3
(参考)八千代市平均	13,500			26

【表2】 畑(普通畑)の部

(単位:円/10a、筆)

締結(公告)された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
麦 丸	15,600	38,500	7,900	8
吉 橋	17,900	47,700	11,200	6
下 高 野	10,400	10,700	10,000	5
村 上	30,000	30,000	30,000	4
島田・島田台	12,800	13,500	12,000	2
尾 崎	8,800	8,800	8,800	1
(参考)八千代市平均	16,800			26

*1 データ数は、集計に用いた筆数である。金額は、算出結果を四捨五入し100円単位となっている。

*2 物納としているデータは米60kg当たり14,700円に換算している。

*3 「(参考)八千代市平均」の平均額は、各区分の平均値(四捨五入前)をデータ数により加重平均した値である。

老後の備えは十分ですか？－農業者年金－

農家の方の老後の生活費は、夫婦2人の場合、月額23万から24万円かかるといわれています。サラリーマンは厚生年金や共済年金によって国民年金(=基礎年金)への上乗せ分がありますが、農家の方は基本的には国民年金のみとなります。国民年金だけでは、夫婦2人合わせて月額13万円程度しかもらえません。その不足分を補う手段として「農業者年金」という制度があります。

制度や加入方法について少しでも気になる方はお問い合わせください。

問い合わせは、JA八千代市(☎450-3711)または農業委員会事務局(☎483-1151)へ。

平成31年 八千代市農作業別標準農作業料金

平成31年における農作業別の標準農作業料金は、【表3】のとおりです。

農作業料金の策定にあたっては、水稻を主作物としている市内4つの農地所有適格法人から農作業別の料金を聴取し、その平均額を算出しています。

この標準農作業料金は、農作業の受委託を円滑にするために、平均的な農作業が行われた場合を想定したものですので、実際に料金を決定する際は、委託者と受託者の両者でよく協議してください。

【表3】 平成31年1月現在

(単位:円)

作業種目		収量	金額	備考
田 機 械 作 業	育苗	1箱当たり	750	中苗の額
	耕起(トラクター)	10a当たり	5,800	
	代掻き(トラクター)	10a当たり	6,500	
	機械田植	10a当たり	6,800	苗費は含まない
	機械刈取・脱穀(コンバイン)	10a当たり	17,500	
	機械刈取・脱穀(コンバイン)・乾燥調整	10a当たり	35,000	籾摺費・運搬費を含む
	乾燥調整	60kg当たり	2,000	籾摺費を含む
	籾摺	60kg当たり	700	
畑作業	耕起(トラクター)	10a当たり	5,500	

平成31年産の「たけのこ」の出荷・販売について

平成31年の八千代市産たけのこについては、昨年同様、出荷前検査(市内産たけのこ3検体について行う放射性物質検査)が終了し「平成31年産たけのこ出荷・販売可能生産者証明書」が発行されるまでは出荷・販売できません。

「平成31年産たけのこ出荷・販売可能生産者証明書」は、市への届出がされた竹林ごとの放射性物質検査の結果に基づき発行され、出荷・販売は証明書に記載がある竹林から産出されたたけのこに限られます。(※出荷・販売時は証明書の写しの添付が必須。)

過去に届出をされている竹林は、出荷前検査終了後に証明書を発行し郵送いたします。証明書に記載のない竹林から産出されたたけのこの出荷・販売を希望される方は手続が必要となります。

つきましては、出荷前検査が終了するまでは、たけのこの出荷・販売を行わないようお願いするとともに、証明書に記載のない竹林から産出されたたけのこの出荷・販売をしないようお願いいたします。詳しくは農政課までお問い合わせください。

